

中央大学 経済学部



教職協働型の教育力向上プロジェクトを推進 遠隔授業の強化で高大社接続教育の充実を目指す



製品 & サービス

- ・ Cisco Webex

課題

- ・ 高大社接続教育の充実化を図る上で遠隔教育の品質が課題
- ・ 従来型ビデオ会議では画質、音質、接続性や操作性に不満
- ・ 従来型ビデオ会議では機器導入コストや運用保守など展開性に不安

ソリューション

- ・ 操作性のよさと品質の高さで遠隔授業の質を高める
- ・ 柔軟な接続性で管理工数も削減、展開も容易
- ・ 産学連携の高大社接続カリキュラムでも活用しやすい

結果～今後

- ・ 必要な時にすぐにつながれるコラボレーション基盤で高大社接続教育改革をさらに推進
- ・ 全国の高校、企業や自治体との連携が加速
- ・ アカデミックインターンシップ、海外展開などでの活用も予定

「實地應用ノ素ヲ養フ」という建学の精神から、「行動する知性。ー Knowledge into Actionー」を育むという中央大学のユニバーシティメッセージの下、実社会が求める人材を実践的な教育を通じて養成している中央大学経済学部。高等教育を取り巻く環境が急速に変化する中、その流れに対応すべく同学部は「本物と出会い、本物になる。未来を創る中央の経済」のスローガンを掲げ、教職協働型の教育力向上プロジェクトを推進しています。今回、高大社接続教育の充実化に向けて実施中の附属高校や民間企業などとの遠隔授業に Cisco Webex を導入。学外との連携拡大へのプラットフォームとして活用を拡げています。

Cisco Webex ならわれわれの目指すところへ

推進スピードを加速してくれる、との思いで導入を志向しました。

—— 中央大学 経済学部 事務室 事務長 村上 毅 氏

課題

中央大学 経済学部 事務室 事務長の村上毅氏は、教育力向上プロジェクトの意義と狙いについて、次のように話します。

「グローバル、少子高齢化、SDGs、Society5.0、アクティブラーニング、人生 100 年時代の到来など、高等教育を取り巻く環境は急速に変化しています。その流れに迅速に対応すべく、本学部では 2015 年度から教職協働型の教育力向上プロジェクトを推進しています。理論を学び、それを実社会で応用できるところまで力を付けられる中大経済学部の教育の強みを可視化して共有し、入学前から卒業までの縦串をしっかりと通した教育環境の構築、すなわち高大社接続教育の充実化を図ることがその目的です。プロジェクトには高校、大学、社会をシームレスにつなぎ、社会の変化に求められる力を身に付け、社会で活躍できる人を育てることを柱に、ゼミナールを通じたグローバル人材教育から国際的感覚や知識をローカルに還元するグローバルへの進化、学部としてのブランディング/広報戦略など、多岐にわたる取り組みが含まれています。先生方が決めて職員が支える、という従来型の組織ではなく、教職の全員が共通の課題意識を持ち、フラットな組織である戦略委員会を構成し、互いの職責や知見を尊重し合いながら推進する点が特長です。」



中央大学
経済学部 事務室
事務長
村上 毅 様



中央大学
経済学部 事務室
副課長
芝沼 康寛 様



中央大学
経済学部 事務室
副課長
小林 創太 様

同学部はまず高大接続の強化策として、2017年度から高校生向けの「科目等履修生制度」をスタート。基本は多摩キャンパスで大学生とともに受講する講義ですが、今後の拡大を視野に、2018年度からは後楽園キャンパスにある中央大学高等学校との遠隔授業を、一般的なフリーソフトを使用して開始しました。しかし、中央大学 経済学部 事務室 副課長 芝沼康寛氏は、当初のシステムでの遠隔授業は、不具合が多かったと語ります。

「接続性や画質、音質など、単位を付与する授業として提供する品質としては不安定で、満足できるものではありませんでした。われわれの取り組みを推進するにあたり ICT 利活用は欠かせないものですので、設備の整備も戦略的な課題と感じていました。」

教員側からこのプロジェクトを推進してきた中央大学 経済学部 准教授の武田勝氏は、従来の遠隔授業の難しさを次のように話します。

「高校生向けの講義は、まずは高校までの学びがそれ以降のベースになるという啓蒙に始まり、経済はその語源が『経世済民』から来ていることから分かるように、世の中を良くし、人々を幸せにしていくための学問であるということを伝えていきます。それは経済学部の学びの楽しさ、有用性を理解してもらうとともに、受験時の互いのミスマッチを防ぐ、とくに附属高校生に対して、経済学部選択の参考にってもらうなど、さまざまな重要な役割を持ちます。そのため遠隔であってもしっかりと伝わるものでなければならぬのですが、当初のシステムは接続や画面の切り替えなどの操作が面倒で講義に集中できませんでした。講義中のインタラクティブなやり取りもしづらく、学生側の満足度も低くなっていました。」

品質の高さと展開の容易さ Cisco Webex は教育の場でも 真価を発揮します

これらの課題を解消するための策として、本格的なビデオ会議システムの導入を検討したとのこと。その中で、最終的に Cisco Webex への関心が高まりました。芝沼氏は、その経緯について次のように説明します。

「画質や音質を求めるとすれば、双方に同じ機材を揃えたビデオ会議システムであることが必須ではないか、と考えていました。しかし、その場合、先方にも同様のシステムを導入する必要が生じ、導入コストがかかる上に連携先が固定されてしまいます。今後、附属の高校のみならず、全国の一般高校との連携、さらには企業や自治体との連携へと拡大していきたいわれわれとしては、これは大きなハードルとなります。ちょうどその時に、情報環境整備センターからシスコソリューションを紹介され、このシステムであれば、先方にインターネット環境さえあれば簡単に接続できる上に、画質や音質も素晴らしいということを知ったのです。」

シスコソリューションを紹介した、学内全体の ICT 情報基盤の環境整備を担当する情報環境整備センター事務部 多摩 IT センター事務課 副課長の山中宏和氏は、その意図を次のように話します。「数年前から、われわれの部署とシスコの間では情報基盤構築などの打ち合わせで頻繁に Cisco Webex を利用していました。必要な時に必要な人とすぐにつながる機動力と、従来製品とは大きく異なる操作性や品質の高さから、いずれ本学の教育の場で必要になるだろうと感じていました。しかし、全学での導入、展開となるとなかなか機会が得られていませんでした。ちょうどシスコからデモ機の貸し出しを受けていたところに相談を受けまして、すぐに見に来てもらって実際に試していただいたところ、これはすごい、という反応が得られ、一気に導入に向けての動きが本格化しました。」



中央大学 経済学部における
改善の取り組み概要

2019

入学前から卒業までの
縦串をしっかりと通した
教育環境の構築

2018

海外インターンシップの
実習先増設

高大接続の強化

- 遠隔授業開始
- 高大連携のための協議会設置
- 高大接続入試の導入を決定
- 学生進学アドバイザー制度(指定校訪問)を導入

教職協働型の戦略委員会として改組・設置

- 学生委員会
- キャリア委員会

**高大社
接続教育改革**

- 施設・設備改善・整備戦略
- 教育のさらなる充実化、総合学園戦略
- グローバル戦略
海外インターンシップの拡充
- キャリア教育・地域との連携・社会貢献戦略
- 入試・高大接続戦略
- 学生支援戦略
- 奨学金戦略
- ブランディング・広報戦略

遠隔システム
シスコ
ソリューション
導入

**「グローバル」から
「グローバル」へ**

遠野みらい創り
カレッジとの
包括協定締結

2017

高校生への
科目等履修生
制度の開放

**教職協働型の
戦略委員会を
設置**

- グローバル人材育成に関する運営委員会
- ブランディング・広報戦略委員会

附属4校の入学前プログラム(研究発表会)を開始
「ビジネス・プロジェクト講座」
商学部と合同開講を開始
海外インターンシップを早期化

2016

学部長諮問
ワーキンググループ
(教職協働) 新設

**経済学部の
強みを可視化**



2015

人事委員会 新設

**カリキュラム
改善委員会
新設**



遠隔授業風景



中央大学
経済学部
准教授

武田 勝 様

ソリューション

村上氏は Cisco Webex の導入を志向した決め手を、次のように話します。

「Cisco Webex は接続性や品質の高さへの評価はもちろん、特に展開の容易さ、拡張性の高さに大きな可能性を感じました。これであれば 1 対 1、設備ありきの考え方ではなく、構築や運用保守を必要とせずローカルからグローバルでもどんどん接続先を広げていきます。全国型の首都圏大学である本学では全国に指定校も多数存在し、また今後は外部の民間企業や地方自治体、官公庁、グローバルとの連携も強化していきたい。Cisco Webex であればわれわれの目指すところへの推進スピードを加速してくれる、との思いで導入を志向しました。」

同学部は学内の平成 31 年度「教育力向上推進事業」に、「ゼミをコアとする高大社一貫教育の実現—主体的学びを育む教育環境の充実」という取組を申請し、採択を得て、Cisco Webex の導入が決定しました。

遠隔授業での操作性と品質の高さ

武田氏は、遠隔授業における Cisco Webex の利用のしやすさと品質を次のように評価します。「Cisco Webex になってからは、接続やカメラの切り替えなども手許のタブレットで直感的に行えて、操作性が各段に向上し講義に集中できるようになりました。画質に加えて集音マイクの性能も高く、180 名規模の教室の一番後ろの席で普通の声で発言しても接続先にも充分伝わります。学生一人ひとりの発言や笑い声なども共有されることで臨場感があり、一体感が生まれて集中力が切れないのが、遠隔授業にとって大きな効果です。」

接続性の高さは管理側からもメリット

情報環境整備センター事務部 多摩 IT センター事務課の倉本優氏は、接続性の高さは管理者にとってもメリット、と話します。

「Cisco Webex は PC やタブレット、スマートフォンなどデバイスを問わずインターネット経由でセキュア、高品質で利用できるのに加え、専用端末である Cisco Webex Devices からも利用可能です。従来のビデオ会議システムのように専用回線やネットワーク環境の準備などが不要で、無線 LAN でも問題なく利用可能です。こうした柔軟な接続性は、管理側の工数削減にもつながります。」

導入ソリューション

Cisco Webex の特長

Cisco Webex Meetings は、直感的な操作と強固なセキュリティでいつでもどこでも、安全で効率的なコミュニケーション環境を提供します。



マルチデバイス 対応

スマホ、タブレット、Mac、Windows PC などさまざまなデバイスで利用できます。



かんたん オンライン会議

数人から最大 3,000 人までのオンライン会議を開催可能です。



セキュアな 暗号化通信

エンドツーエンドのデータ暗号化と保護により、安全な通信が確保されます。



便利な機能を 標準搭載

資料共有、録画、チャットや投票、ビデオ会議との相互接続などの機能を標準搭載しています。



中央大学
情報環境整備センター 事務部
多摩 IT センター 事務課
副課長
山中 宏和 様



中央大学
情報環境整備センター 事務部
多摩 IT センター 事務課
副課長
倉本 優 様

産学連携の大社接続カリキュラムでも活用

Cisco Webex は大学と企業をつなぐ大社接続教育の場においても活用が始まっています。カリキュラムを担当する経済学部 事務室 副課長 小林創太氏は、具体的な活用例を次のように話します。

「本学のキャリア教育の特色の 1 つである、大学 1 年生向けのビジネス・プロジェクト講座でも Cisco Webex を活用しています。本講座はこれまでの専門性を高める大学教育に加えて、入学直後の早い段階から学生が自ら主体性を引き出すとともに、社会で必要なスキルを認識し、以降の学生生活につなげるための企業との産学連携による次世代プログラムです。社会の最前線で活躍する大手企業のビジネスパーソンを招き、与えられたミッションから学生がチームで課題解決のプレゼンテーションを行うのですが、ある企業から最終プレゼンをキャンパスではなく自社でやりませんか、とのお申し出をいただきました。授業との兼ね合いで学生の全員参加が難しかったのですが、Cisco Webex での接続でキャンパスにいながらその模様を全員で共有することができました。企業側の皆様は Cisco Webex の利用経験も豊富で、われわれから接続における負荷を押し付けることなく、気軽にご利用いただけます。改めて、ハードルの低さを実感しました。今後は国内にとどまらず海外インターンシップなど、グローバル教育での活用が期待できます。」

結果～今後

武田氏は教育力向上プロジェクトの全体での成果と Cisco Webex の貢献を次のように話します。「教育力向上プロジェクトの成果は、学生アンケートでの満足度向上、附属高校からの進学者率改善など、数値としても表れています。Cisco Webex という必要な時にすぐつながれるコラボレーション基盤を得たことで、取り組みが大きく加速する手応えを感じています。」

今後、同学部は教育のさらなる充実化、総合学園戦略、キャリア教育、地域との連携による社会貢献など高大社接続教育改革をさらに推進していく構え。最後に村上氏は、今後の展開とシスコへの期待についてこう話します。

「社会環境変化に伴い、学びのスタイルも進化する必要があります。われわれはこのプロジェクトを通じてクラスター、学修モデルを可視化することにより、学生が進路に応じた体系的かつ計画的な学修を可能とする環境を整備したいと考えています。そのためには ICT の利活用が欠かせませんので、シスコとは今後も、われわれの取り組みを加速させるソリューション提供のパートナーとして協働していただきたい。海外の大学や企業など、新たな接続先の紹介も期待しています。」

その他の詳細情報

Cisco Webex の詳細は、www.cisco.com/c/m/ja_jp/solutions/webex.html を参照してください。

中央大学 経済学部



中央大学
CHUO UNIVERSITY
— Knowledge into Action —

創立 1885年
大学設置 1920年
設置者 学校法人中央大学
本部所在地 東京都八王子市東中野 742-1
学部所属学生数 4,301人
大学院(経済学研究科) 40人(2019年5月1日現在)
URL <https://www.chuo-u.ac.jp/academics/faculties/economics/>

経済のグローバル化が進む今日、経済や経営についての専門的知識を備え、日本と世界の経済発展に貢献できる人材のニーズはますます高まっています。経済学部では、本学の「建学の精神」である「實地應用ノ素ヲ養フ」教育を重視し、経済学科、経済情報システム学科、国際経済学科、公共・環境経済学科という4学科体制によって、社会の多様なニーズに応えうる上記のような人材を育成します。それと同時に、学生一人ひとりが、幅広い教養、論理的な思考力、対人交渉や相互理解のための優れたコミュニケーション能力を備えた、社会のあらゆる場面で活躍できる知識の深さと広さを併せもつ人材となるよう養成します。

シスコ コンタクトセンター

自社導入をご検討されているお客様へのお問い合わせ窓口です。
製品に関して | サービスに関して | 各種キャンペーンに関して | お見積依頼 | 一般的なご質問

お問い合わせ先

お電話での問い合わせ

平日10:00-12:00, 13:00-17:00

0120-092-255

お問い合わせウェブフォーム

cisco.com/jp/go/vdc_callback



©2020 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco, Cisco Systems, およびCisco Systemsロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における商標登録または商標です。本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。「パートナー」または「partner」という用語の使用はCiscoと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1502R) この資料の記載内容は2020年2月現在のものです。この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>